

科目コード	2689014	授業概要 【授業内容】 これからパソコンの使い方とオンライン授業の受講方法を学びたいと思っている初心者向けの授業です。パソコンの操作方法と放送大学の情報通信環境およびオンライン授業の受講方法を学びます。学習センターのWifiへの接続方法、放送大学ウェブサイト、学生用電子メール、受講科目の登録や成績の確認ができるシステムWAKABAの利用方法と、附属図書館の電子情報サービスを使った情報収集の方法を実習で学びます。さらに、オンライン授業のテキストと動画の閲覧、小テストの提出、ディスカッションへの参加、レポート提出を体験します。 【到達目標】 パソコンの起動・終了、マウス操作、文字入力、文書作成ソフトの起動、ファイル保存、フォルダ操作、Webサイト閲覧、電子メール利用、情報セキュリティ、情報発信マナー、WAKABAの主な機能、Web通信指導、Web単位認定試験、OPACでの図書検索、電子書籍の閲覧、論文検索、オンライン授業、ライブWeb授業の受講等、放送大学での学習に必要なパソコンスキルの基礎的なことを理解し、実践できるようになる。 【授業テーマ】 第1回 パソコンの基本操作（キーボード入力・マウス操作・オンライン授業に必要な基本スキル） 第2回 文書作成とPDF保存 第3回 Webとメールの活用 第4回 セキュリティ 第5回 システムWAKABA・自己学習サイト 第6回 放送大学附属図書館の電子情報サービス 第7回 オンライン授業の実践 第8回 まとめと振り返り（第7回で体験したオンライン授業の感想をレポートにまとめオンラインで提出） 【学生へのメッセージ】 基本的なパソコン操作と放送大学の学習に役立つパソコンの使い方を初歩から学びます。実習中は、講師とアシスタントが丁寧にサポートするので、パソコンを使い慣れていない方でも安心して受講してください。 【受講前の準備学習等】 「学生生活の栞」に掲載されている放送大学のシステムWAKABA（教務情報システム）や各種システム、情報セキュリティガイドラインを読んで理解しましょう。自宅にパソコンがある場合は、そのパソコンを使ってシラバスの内容を予習してください。受講後は、受講時に配布する「新・初歩からのパソコンテキスト」を通読し、授業内容を復習してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。特に、授業前と後でのパソコンスキルの伸びを重視します。 【受講者が当日用意するもの】 1. USBメモリ（※市販されている一番安価な物で結構です。） 2. 学生証 ※授業内でログイン操作を伴う実習があります。必ずお持ち下さい。 【教科書】 ・新・初歩からのパソコンテキスト（情報リテラシー面接授業タスクフォース／放送大学／¥0） 授業当日に配付します。 【参考書】 ・新・初歩からのパソコン電子版テキスト（情報リテラシー面接授業タスクフォース／放送大学／¥0） PDF／ダウンロード方法は授業で説明します。 【その他（特記事項）】 この科目は2009～2015年度「基礎科目」に該当します。 「大学で学ぶためのパソコン基礎」の単位を修得済みの方は登録できません。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	新・初歩からのパソコン	
科目区分	基盤科目	
ナンバリング	110	
定員	15名	
担当講師	カジワラ クリコ 梶原 久梨子 大阪大学特任助教	
日程 実施時間	12月19日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月20日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695642	【授業内容】 本授業では中国語初学者を対象に、声調、母音、子音などの発音を段階的に学び、反復練習を通して正確な発音を身につける。また、初歩的な表現を発話することで発音の定着を図る。 【到達目標】 中国語のピンインを正しく読み、聞き分けることができるようになる。また、簡単な挨拶や自己紹介など、初歩的な表現を正確に発音できるようになる。 【授業テーマ】 第1回 中国語の声調（第1声～第4声、轻声） 第2回 中国語の母音（単母音、複母音） 第3回 中国語の子音（唇音、舌尖音、舌根音、舌面音、舌歯音、そり舌音） 第4回 中国語の鼻音と声調変化 第5回 基本的な構文（1）動詞述語文、“是”構文など 第6回 基本的な構文（2）形容詞述語文、簡単なあいさつ・日常表現 第7回 中国語で自己紹介（作文と発表） 第8回 授業内容の振り返り 【学生へのメッセージ】 本授業では自然な発音の習得を主要な目標としているため、リスニングと発音の練習を多く行います。また、すでに基礎が身についている方も、改めて基礎から見直し、より自然な発音を目指していきましょう。 【受講前の準備学習等】 【事前学習】 シラパスの内容から判断して自己学習に努めてください（大阪大学「中国語発音の基礎」 http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flit/public/zh/p_kiso/data/0101.html および東京外国語大学言語モジュール https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/ を活用してください。） 【事後学習】 授業中に配布した資料を利用して復習してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 筆記用具および紙のノートをご用意ください。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・『基礎から発展までよくわかる中国語文法』（丸尾誠／アスク出版／¥2,090／ISBN=9784872177541） 【その他（特記事項）】 この科目は2009～2015年度「共通科目：外国語」に該当します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	発音を楽しむ中国語	
科目区分	基盤科目：外国語	
ナンバリング	110	
定員	40名	
担当講師	リュウ ヒョウ 劉 轟 大阪大学准教授	
日程 実施時間	10月24日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 10月25日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695650	【授業内容】 本授業では、様々なジャンルの英語に親しむと同時に英語表現や語彙・文法を学びます。その際、特に「スペルと音の関係」に着目した観点から英単語に対する洞察を深めます。 具体的に、前半では洋楽の中で使われている英語表現に対して、なぜこのような表現が用いられているのか等の問題意識を持って考察および議論を行います。 後半では英語の単語がなぜこのようなスペルになっているのか、音とどのように関係しているのかという点に焦点を絞ります。多くの具体例から深く考察を行い、英語の不思議さと面白さについて議論を行います。 【到達目標】 ・英語のスペルと音の関係について理解し、その特徴を説明することができる。 ・新たな単語に出会ったときにその読み方を推測することができる。 ・洋楽の（言語的な）性質を理解し、説明することができる。 【授業テーマ】 第1回 Introduction／洋楽 第2回 スペルと音の密接な関係／洋楽 第3回 スペルと音の基本的な関係①／洋楽 第4回 スペルと音の基本的な関係②／洋楽 第5回 スペルと音の不規則な関係①／洋楽 第6回 スペルと音の不規則な関係②／洋楽 第7回 スペルと音の多様な関係①／洋楽 第8回 スペルと音の多様な関係②／洋楽 【学生へのメッセージ】 ・言葉の不思議さ、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・なぜこの言葉あるいはスペルを使うのか等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 ・学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 発言やペア・グループワーク等を含めた授業への取り組みや、課題および提出物の内容から総合的に判断して評価を行います。 【受講者が当日用意するもの】 電子辞書やオンライン辞書など媒体は問いませんが、辞書が使えたら便利です。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 この科目は2009～2015年度「共通科目：外国語」に該当します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	英語初級2	
科目区分	基盤科目：外国語	
ナンバリング	110	
定員	40名	
担当講師	スズキ ダイスケ 鈴木 大介 大阪大学准教授	
日程 実施時間	11月12日(木) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月19日(木) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695669	【授業内容】 私たちが何気なく使っている日本語のなかには、とても多くの英語が入り込んでいます。街で目にする光景のなかで、また映画やTVなどのメディアを通して、英語に知らず知らずのうちに触れています。この授業では、そのように生活のなかで接する英語について見直す作業と共に、自然な発音・発声の仕方や、簡単な口語表現・文法を学習していきます。「ことば」を学ぶことの意味を再確認していただく機会になれば幸いです。 【到達目標】 ・日本語のなかに含まれている「英語」について理解し、その意味や用法について説明することができる。 ・英語の発音や文法に基づいて、簡単な英文の意味を理解し、口に出して読むことができる。 ・日常的に接するメディアを利用した英語学習の方法について説明できる。 【授業テーマ】 第1回 英語の発音の基礎 第2回 日本語のなかの英語 第3回 英語の歌と詩 第4回 英単語の語源と構成要素 第5回 英語のことわざ・格言 第6回 メディアで学ぶ英語 第7回 映画のなかの英語 第8回 授業の振り返り 【学生へのメッセージ】 英語の辞書（紙媒体または電子辞書）を必ず用意してきてください。また、受講生の反応を見ながら、作業の時間や種類を調節していきますので、1～7回の授業テーマを1～7時間目までに行いますが、順番および内容が変更になる場合もあります。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 英和辞典（紙媒体または電子辞書）、筆記用具 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 この科目は2009～2015年度「共通科目：外国語」に該当します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	英語初級： 日常からの一步	
科目区分	基盤科目：外国語	
ナンバリング	110	
定員	40名	
担当講師	サトウチ カツミ 里内 克巳 大阪大学大学院・教授	
日程 実施時間	11月21日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月22日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695677	【授業内容】 この授業では、まずフランス語の発音の基礎を学びます。発音する文字と発音しない文字、そして2～3文字で1つの音になる頻出の組み合わせを中心に学習します。また、日本人学習者にとって区別しにくい音についても、簡単な指導を行います。その後、基礎的な文法と語彙を用いた会話練習を行います。まず、モデルとなる3つの会話を読んで内容を理解し、ペアで音読練習をします。次に、似たような会話を自分たちで作成し、発音の練習を行います。最終的には、原稿を見ずに作成した会話を言えるようになることを目標に練習します。 【到達目標】 フランス語の文章を、発音する文字と発音しない文字、また頻出する文字の組み合わせを意識しながら、ある程度正しく読み上げることができるようになる。フランス語で簡単な会話を作成できるようになる。フランス語の文章を見ずに、簡単な会話ができるようになる。 【授業テーマ】 第1回 発音の規則・会話1 (Ca s'écrit comment ?) 第2回 発音の規則・会話2 (Comment on dit... ?)・会話3 (Qu'est-ce que tu fais dans la vie ?) 第3回 発音の規則・会話4 (Moi, je suis vendeur.)・会話5 (Pour une femme, on dit "anglaise.") 第4回 発音の規則・会話6 (C'est qui à gauche ?)・会話7 (C'est à qui ?) 第5回 発音の規則・会話8 (Est-ce que tu aimes...?)・会話9 (Au café) 第6回 発音の規則・会話10 (J'ai fait la fête avec des amis.)・会話11 (Commander) 第7回 発音の規則・会話12 (Je suis allé au cinéma avec ma soeur.)・会話13 (Il faut descendre à quel arrêt ?) 第8回 全体の復習 【受講前の準備学習等】 フランス語のごく簡単な挨拶や自己紹介を事前に調べ、発音も聞いておいてください。フランス語のアルファベットもあらかじめ学んでおくと、よりスムーズに授業を進めることができます。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 この科目は2009～2015年度「共通科目：外国語」に該当します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	フランス語初級：会話の練習	
科目区分	基盤科目：外国語	
ナンバリング	110	
定員	40名	
担当講師	バルカ コランタン バルカ コランタン 大阪大学講師	
日程 実施時間	12月19日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月20日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695685	【授業内容】 運動が生涯を通じた健康づくりに役立つ一方で、誤った健康関連情報も蔓延しています。そのため、身体へのしくみを理解した上で、健康づくりのための運動を科学的に捉えることが重要です。本講義では、健康関連体力や体型に着目し、運動生理学的視点から身体適応や効率的な実施方法について研究知見に基づき解説します。また、スポーツ活動に限定しない身体活動と健康づくりの関係や運動を実施していく上で留意すべきスポーツ障害（内科系）に関しても併せて解説し、生涯にわたり運動を継続していくために必要な知見を提供します。 【到達目標】 ・健康関連体力及び体型と健康づくりの関連について説明できる。 ・健康関連体力の規定要因やそれに基づく効率的な改善方法について運動生理学的視点から説明できる。 ・科学的根拠に基づく体型づくりの方法を説明できる。 ・スポーツ活動に限定しない身体活動の重要性を説明できる。 【授業テーマ】 第1回 体力と健康づくり（概要）と運動トレーニングの原理原則 第2回 全身持久力と健康 第3回 筋力と健康 第4回 体型づくりと健康（体重維持と減量） 第5回 体型づくりと健康（筋量の維持増加のための栄養摂取） 第6回 身体活動と健康 第7回 スポーツ障害（内科）と健康 第8回 まとめ 【学生へのメッセージ】 講義は基本的な医学・生理学の内容も含め、初学者にも分かりやすいように行います。一部、専門用語が含まれるため、難解に感じる場合もあるかと思いますが、言葉の暗記よりも内容の理解に努めてください。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 この科目は2009～2015年度「共通科目：保健体育」に該当します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	健康づくりのための運動生理学	
科目区分	基盤科目：保健体育	
ナンバリング	120	
定員	70名	
担当講師	タカギ シュン 高木 俊 びわこ学院大学教授	
日程 実施時間	10月31日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月1日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695693	授業概要 【授業内容】 移動手段の簡便化、日常生活の機械化・省力化によって、便利になり過ぎた現在では、身体活動レベルの低下が生活習慣病の一因となっているのは明かです。生涯にわたって健康であるためには、日常における適切な身体活動は重要です。本講義では、健康的なライフスタイルを獲得するのに必要なスポーツ科学についての知識を身につけます。 【到達目標】 日常での適切な身体活動の役割を知るため、それに関連する専門語句を理解し、運動習慣を効率的に取り入れることができる。 【授業テーマ】 第1回 日本人のライフスタイル 1 第2回 日本人のライフスタイル 2 第3回 肥満とは？ 第4回 ヒトの骨格筋 第5回 運動時の体温調節 第6回 運動処方の実例 1 第7回 運動処方の実例 2 第8回 まとめ 【学生へのメッセージ】 競技スポーツよりも、主に健康のために必要なスポーツ科学に関する講義です。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 電卓 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 この科目は2009～2015年度「共通科目：保健体育」に該当します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	健康のための スポーツ科学	
科目区分	基盤科目：保健体育	
ナンバリング	120	
定員	80名	
担当講師	シマモト ヒデキ 島本 英樹 大阪大学教授	授業概要
日程 実施時間	11月28日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月29日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695707	授業概要 【授業内容】 ボランティア元年と呼ばれた阪神・淡路大震災以来、30年にわたる災害ボランティア活動の現場研究を通して、災害救援、復興支援、地域防災に関わる災害ボランティアとそれを取り巻く社会の状況について、集団力学（グループ・ダイナミックス）の観点から理解します。 【到達目標】 「よい理論ほど実践的なものはない」という集団力学（グループ・ダイナミックス）の基本姿勢を理解することによって、現場での実践こそ意味があると思われがちな災害ボランティア活動について、その理論的な意味や社会的意義を議論し、次の実践へと展望を拓くことができるようになる。 【授業テーマ】 第1回 授業の概要と到達点、および、災害ボランティアの30年の流れ 第2回 災害ボランティアの事例と問題点 第3回 グループ・ダイナミックスの理論と実践（1） 位置づけ、メタ理論、理論 第4回 グループ・ダイナミックスの理論と実践（2） 方法、成果、実践 第5回 災害救援における災害ボランティア 第6回 復興支援における災害ボランティア 第7回 地域防災における災害ボランティア 第8回 総括 災害ボランティアの可能性 【学生へのメッセージ】 災害ボランティア活動に参加した経験の有無については問いません。参加にあたり配慮の必要な方々は、遠慮なくお申し付けください。 【受講前の準備学習等】 身近に感じる自然災害を1つ採り上げて、災害ボランティアにも注目して、インターネット等で調べておいてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートにより行います。なお、レポートのテーマは、『日本で発生した自然災害を1つ採り上げ、災害ボランティアの活動に注目し、授業で修得したグループ・ダイナミックスの考え方をを用いて、論評してください』です。 【教科書】 ・災害ボランティアー新しい社会へのグループ・ダイナミックス（渥美公秀／弘文堂／¥1,980／ISBN=9784335551628） 【参考書】 ・東日本大震災と災害ボランティアー岩手県野田村 復興への道（渥美公秀・貫牛利一／大阪大学出版会／¥2,420／ISBN=9784872596434） 災害救援から復興支援へ ・集落く復興く一中越地震と限界集落の物語（渥美公秀・関嘉寛・山口洋典／大阪大学出版会／¥2,750／ISBN=9784872598049） 災害復興 ・誰もがく助かるく社会ーまちづくりに織り込む防災・減災（渥美公秀・石塚裕子／新曜社／¥1,980／ISBN=9784788517127） 地域防災 【その他（特記事項）】 授業中にパワーポイントで多くの写真を提示します。それを撮影してSNS等で流すことは禁止します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	災害ボランティアの 集団力学	
科目区分	専門科目：生活と福祉	
ナンバリング	320	
定員	80名	
担当講師	アツミ トモヒデ 渥美 公秀 大阪大学教授	
日程 実施時間	11月7日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月8日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695715	授業概要 【授業内容】 ヒトが老化し死に至る過程を概説し、それに対する最新の老年医療の考え方について述べます。 【到達目標】 高齢者における現在の医学的問題についての知識を習得し、高齢者の健康管理や疾病予防について適切に判断できる。 【授業テーマ】 第1回 高齢者の複雑性 第2回 高齢者と薬～ポリファーマシー～ 第3回 身体の高齢～フレイル～ 第4回 脳の高齢～認知症～ 第5回 健康寿命の延伸 第6回 老化生物学 第7回 人生の最終段階 第8回 地域包括ケアシステムと2日間のまとめ 【学生へのメッセージ】 老年医学の課題と挑戦について、わかりやすく解説します。高齢者医療に対して関心のある方の参加を希望します。 【受講前の準備学習等】 高校生物程度の理解が望ましいですが、講義の理解に特別な条件などはありません。シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	人生100年時代： 老年医学入門	
科目区分	専門科目：生活と福祉	
ナンバリング	320	
定員	80名	
担当講師	タケヤ ヤスシ 竹屋 泰 大阪大学教授	
日程 実施時間	12月12日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月13日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2689146	【授業内容】 この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD：Bring Your Own Device）で実施します。 【受講前の準備学習等】 【受講者が当日用意するもの】 【その他（特記事項）】 読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。 心理学における実験的研究を2つ（記憶範囲、メンタルローテーション）取り上げます。受講生は、それらの実験に実験者および参加者として参加し、得られた結果をレポートにまとめます。授業を通して心理学の実験方法、データ整理、レポートの書き方について理解することを目指します。受講生は、原則8コマの授業すべてに出席し、2つの実験すべてについてレポートを提出する必要があります。 【到達目標】 心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。心理学における実験の意義、および心理学実験を経験することを通して、問題設定、仮説の導出、方法、データ収集、結果の整理、考察に至るまでの過程を理解できるようになる。 実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 心理学実験とは 第2回 レポートの書き方 第3回 実験1「記憶範囲」の説明と実施 第4回 実験1「記憶範囲」の解説とデータ整理 第5回 統計的分析とデータの解釈 第6回 実験2「メンタルローテーション」の説明と実施 第7回 実験2「メンタルローテーション」の解説とデータ整理 第8回 レポート執筆指導 【学生へのメッセージ】 実験の実施、データ整理、レポートの作成等にパソコンを使用しますので、基本的なパソコン操作（Word、Excel等）は習得されていると望ましいです。また、心理学研究法や心理統計の基礎を学んでいると理解が深まると思います。 【受講前の準備学習等】 パソコンの動作確認は事前に必ず済ませておいてください。授業ではインターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の葉」をご参照ください。OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。実習課題の内容について、あらかじめ調べておく必要はありませんが、シラパスの内容から判断して自己学習に努めてください。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。 事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みと実験レポートの評点により行います。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	心理学実験2	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	20名	
担当講師	エンドウ ノブタカ 遠藤 信貴 近畿大学准教授	
日程 実施時間	10月17日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 10月18日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
授業概要		
実施会場	大阪学習センター	【受講者が当日用意するもの】 1. 持参する端末 ノートパソコンを持参してください（スマートフォン、タブレットPC、Chrome Bookは除く）。 2. OSの指定 WindowsかmacOSのどちらでも構いません。 3. ソフトのインストール ・ブラウザはMicrosoft Edge（エッジ）、Google Chrome（クローム）、MozillaFirefox（ファイアーフォックス）、Safari（サファリ）のいずれかが必要です。 ・Wordが必要です。 ・Excelが必要です。 4. その他 ・マウスを持参してください。 ・ソフトのバージョン指定はありませんが、WordとExcelはOfficeオンラインでは機能制限があるため、インストール版を強く推奨します。 ・紙媒体でレポート提出してもらいますが、学習センターにプリンターはありませんので、自宅やコンビニ等で印刷してください。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 充電を完了した端末と、充電切れが生じた時のためのACアダプタを必ず持参してください。 端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 なお、端末の故障や必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責によらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。 心理学実験1・心理学実験2・心理学実験3は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からも受講可能です。

科目コード	2689189	【授業内容】 心理検査は、われわれの環境に対する様々な対処の方法を、様々な方法を用いて知る手段です。今回の授業では、S-H式レジリエンス検査、バウムテスト、ビッグファイブ尺度、内的作業モデル尺度を用い、「個人のうちに潜む様々な傾向」を検出する手がかりをみつけ、自己および他者の特性の理解を深めます。なお、原則として8回すべての授業に出席し、すべての検査実習についてレポートの提出を求めます。 【到達目標】 ・心理検査法を「検査者」や「被検査者」として体験的に学ぶことにより、心理検査を実施することの意義と具体的手続き、及び心理検査を実施する上での倫理を説明できるようになる。 ・検査の結果を適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 心理検査法について - 総論 第2回 S-H式レジリエンス検査について 第3回 ビッグファイブ尺度について 第4回 テストバッテリーと心理検査における倫理について 第5回 内的作業モデル尺度について 第6回 内的作業モデル尺度－グループディスカッション－ 第7回 バウムテストについて 第8回 まとめ 【学生へのメッセージ】 心理検査は心理学を学ぶ学生の最も興味のある分野の一つであると思います。これを機会に、自分がどのような特性を持っているのか、心理検査を手がかりにして知ってみましょう。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし、実習課題について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 特に、心理検査法に関する書籍、バウムテスト、レジリエンスに関する書籍を読んでください。 この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。 放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。 事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。 【成績評価の方法】 履修状況およびレポートによって評価します。レポートでは、4つの心理検査全ての考察が求められます。 レポートの提出期限は、原則として第8回目の授業終了までとします。 【受講者が当日用意するもの】 電卓、定規、黒鉛筆、A4の画用紙1枚 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	心理検査法基礎実習	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	50名	
担当講師	リン ヘイヘイ 林 萍萍 大阪商業大学助教	
日程 実施時間	10月17日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 10月18日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2689146	【授業内容】 この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD:Bring Your Own Device）で実施します。 【受講前の準備学習等】 【受講者が当日用意するもの】 【その他（特記事項）】 読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。 この授業では、心理学の基礎的な実験を3種類行います。みなさんは、それらに実験者、または被験者として参加し、実験を行なうとともに、その理論的背景を学びます。さらに目的、方法、結果と考察を、1レポートにまとめます。学生のみなさんは3種類の実験全てに参加し、3本のレポートにまとめ、提出しなければなりませんので、原則として8回の授業全部に参加する必要があります。 【到達目標】 心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。 実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 心理学における実験の概要 第2回 心理学実験レポートの書き方 第3回 要求水準（1）実験の説明と実施 第4回 要求水準（2）結果の集計・分析と解説 第5回 メンタルローテーション（1）実験の説明と実施 第6回 メンタルローテーション（2）結果の集計・分析と解説 第7回 自由再生による記憶の系列位置効果（1）実験の説明と実施 第8回 自由再生による記憶の系列位置効果（2）結果の集計・分析と解説 【学生へのメッセージ】 実験の実施、結果のまとめ、レポートの作成等に、パソコンを使用しますので、基本的なパソコン操作（Word, Excel等）は習得されていることを望みます。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容を参考にして、事前の自己学習に努めてください。学習すべき内容としては、たとえば ・心理学研究法 ・心理学実験法 ・実験データの解析法 ・実験レポートの書き方 などがあげられます。ただし、実習課題について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。 放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。 事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。 インターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の葉」をご参照ください。 OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。 【成績評価の方法】 成績評価は授業内で実施する実習課題への主体体取り組みとレポートの評点により行います。レポートはGoogle Classroomの課題提出機能を使って提出してもらいます。作成にパソコン等でのワープロを使用することは構いませんし、推奨します。どうしてもワープロ等の作業が困難な人は手書き等で作成することを禁ずるものではありませんが、最終的には電子的な形態へ変換して提出することになります。その電子化の方法については自己責任でお願いします。レポートの最終提出形態については各自で可読性があることを確認の上提出して下さい。 【受講者が当日用意するもの】 1. 持参する端末 ・ノートパソコンを持参してください。 2. OSの指定 ・種類は問いません（Windows、macOS、ChromeOS等）。 3. ソフトのインストール ・ブラウザはMicrosoft Edge（エッジ）、Google Chrome（クローム）、Mozilla Firefox（ファイアーフォックス）、Safari（サファリ）のいずれかが必要です。 ・Wordが必要です。 ・Excelが必要です。 4. その他 ・マウスの使用を推奨します。 ・ソフトのバージョン指定はありません。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 充電を完了した端末と、充電切れが生じたときのためにACアダプタを必ず持参してください。 端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 なお、端末の故障や必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責にやらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。 心理学実験1、心理学実験2、心理学実験3は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からでも受講可能です。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	L	
科目名	心理学実験2	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	30名	
担当講師	ヤマサキ テルオ 山崎 晃男 大阪樟蔭女子大学教授	
日程 実施時間	10月24日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 10月25日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
授業概要		
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695723	【授業内容】 心理学は人の心という外部からは観察のしにくい働きをとらえる学問として始まり、20世紀以降は自然科学的な実証可能性を追求して心の働きの結果として外部に出る行動を基盤に客観性の高いデータに基づいた科学へと展開していきます。この授業では行動科学としての心理学の視点を概観し、さらに後半では聴覚という題材を軸に行動とは考えにくい、感覚・知覚現象について分かってきた近年の知見を紹介します。これを通じて、データに基づく「心」の働きの解明への視点がどのようなものかを伝えます。 【到達目標】 行動や生理データの数量化による手法の有効性と限界を説明することができるようになる。 聴覚が何をとらえるために存在するのか、さらにその目的を遂げるために、ヒトの聴覚系には備わる巧みな仕組みの概観を、基底膜による周波数分解、聴神経の位相固定発火による周期情報の伝達を中心に説明できるようになる。 【授業テーマ】 第1回 心理学はなぜ行動科学になっていったか 第2回 客観性を担保するための数量化。 第3回 感覚・知覚を扱うための心理物理学的測定法。 第4回 聞いて知ることのできる世界と聴覚情景分析における周波数の重要性。 第5回 聴覚と視覚の対比。 第6回 周波数はどうやってわかる？（基底膜の共鳴による符号化） 第7回 周波数はどうやってわかる？（神経発火の位相固定性） 第8回 聴覚系での周波数情報の伝え方を解説する 【学生へのメッセージ】 心理学を行動科学として実践するという方針には未だに批判もあります。しかし、このような視点が導入されて以降、人間の行動に関与する様々な要因を情報処理過程としてとらえられるようになっていきます。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。音響学講座5「聴覚」（古川編著、コロナ社、2021）の第1章「聴覚系の生理学・解剖学」からの内容を講義第1日目に配布するので、それを第2日前に読んで、聴覚系の生理学についての概要を事前知識として予習しておいてください。余裕がある場合は、上記書籍の第2章「周波数分析機能」、第6章「ピッチ」についても読んでおくとさらに良い。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 授業資料は授業時に紙で配布します。メモがとれるような余白を設けておりますので、筆記具を持参してください。 【教科書】 授業当日に補助教材を配付します。 【参考書】 ・音響学講座5（古川茂人編著／コロナ社／¥4,950／ISBN=9784339013658） ・心理学 第5版補訂版（鹿取 廣人（編）／東京大学出版会／¥2,640／ISBN=9784130121170）
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	心理学概論～聴知覚～	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	70名	
担当講師	ツザキ ミノル 津崎 実 京都市立芸術大学名誉教授	
日程 実施時間	10月24日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 10月25日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2689120	授業概要	【授業内容】
学習センター	大阪学習センター		この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD:Bring Your Own Device）で実施します。
学習センターコード	27A		【受講前の準備学習等】
クラスコード	K		【受講者が当日用意するもの】
科目名	心理学実験1		【その他（特記事項）】
科目区分	専門科目：心理と教育		を読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。
ナンバリング	320		この授業では、心理学の実験的研究として「ミューラー・リヤー錯視」「仮現運動」を扱います。
定員	20名		全体の学習の流れとしては、他の心理学研究法と比較した実験法の特徴（メリット・デメリット）や注意点等、基礎知識について解説した上で、各実験テーマごとに、実験実施・実験内容の解説・統計分析・レポートの書き方等、一つ一つ演習と解説を繰り返す形で実施します。
担当講師	ウエハラ ヨリコ 上原 依子 放送大学非常勤講師		なお、原則として8回の授業すべてに出席し、期日までにすべての実験レポートを提出する必要があります。
日程 実施時間	10月31日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月1日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10		【到達目標】 ・心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。 ・実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。
実施会場	大阪学習センター		【授業テーマ】 第1回 心理学研究法における実験法の特徴、注意点 第2回 実験1「ミューラー・リヤー錯視」実施・解説 第3回 実験1 結果の整理と分析 第4回 統計の基礎知識、レポートの書き方 第5回 実験2「仮現運動」実施・解説 第6回 実験2 結果の整理と分析 第7回 統計の基礎知識、レポートの書き方 第8回 実験計画等、まとめ 【学生へのメッセージ】 受講前の準備をよく読み、PCの更新等は必ず事前に行っておいてください。 また、苦手意識があっても大丈夫ですが、この授業の参加にはPC操作、Excelの使用が必須のため、ある程度操作に慣れておくようにしてください。 【受講前の準備学習等】 ・インターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の葉」をご参照ください。 ・【当日の遅れやPCが使用できなくなる原因となるため、予めOS等の更新、セキュリティ修正プログラムを適切に適用しておいてください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新しておいてください。これらの事前準備を行わず当日に教室で行い、上記の問題が生じた場合は、すべて自己責任となります】 ・持参する端末にはGoogle Chromeをインストールしておいて下さい。 ・当日はMicrosoft Excel, Word を使用予定です。動作確認をしておいてください。 ・シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし、実習課題について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 ・なお、この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートにより行います。レポートの書き方や書くべき内容については授業の際に教示します。 レポートはGoogle Classroomの課題提出機能を使って期日までの提出を求めます。 【受講者が当日用意するもの】 1. 持参する端末 キーボード必須のため、ノートパソコンを持参してください。スマートフォンでは実験参加不可能です。 マウスを使用予定のため、持参してください。 2. OSの指定 OSは問いません。 3. ソフトウェアのインストール Google Chromeが動作する必要があります。Microsoft Excel, Wordも必要です。 4. その他 ・ヘッドフォンもしくはイヤフォン。持参する端末から音を聞くために必要です。 ・USBメモリスティック（データ等の交換に使用します） ・レポートはGoogle Classroomの課題提出機能を使って提出します。 ・パソコン等でレポート作成することを推奨します。 どうしてもパソコンの作業が困難な人は手書き等でも構いませんが、PDFや画像に変換して電子的な形態で提出する必要があります。その電子化の方法については自己責任でお願いいたします。 ・レポートはきちんと読める状態であることを確認した上で、提出して下さい。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 ・持参する端末は十分に充電を済ました状態にし、かつACアダプターを忘れずにご持参下さい。バッテリー切れで端末が使用できない場合は受講ができなくなります。 ・端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 ・なお、バッテリー切れや端末の故障、必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責によらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。 ・心理学実験1、心理学実験2、心理学実験3は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からでも受講可能です。

科目コード	2695731	授業概要 【授業内容】 この授業では、子どもの発達とそのつまずきについて学びます。最初に、私たちの子どもを見るまなざしを振り返ることから始めましょう。次に、今を生きる子ども達の世界の広がりについて考えます。その上で、主に言葉の様々な側面に焦点を当て、その発達とつまずきについてお話しします。この授業を通じて、子どもに対する理解を深め、つまずいている子ども達に対して発達の視点を持って関わる事ができるようになることを目指します。 【到達目標】 子どもの発達とそのつまずきについて適切に理解し、それを説明することができる。 【授業テーマ】 第1回 子どもについての見方を振り返る 第2回 多様な世界を生きる子ども達 第3回 認知の発達 第4回 子どもの自己と心の理論：「わたし」と「あなた」を理解する 第5回 コミュニケーションの発達とそのつまずき 第6回 話し言葉の発達とそのつまずき 第7回 書き言葉（読み書きの能力）の発達とそのつまずき 第8回 子どもの発達を支援する 【学生へのメッセージ】 自らの子ども時代を振り返りながら、現代を生きる子ども達の生きる世界について、ともに考えていきましょう。 【受講前の準備学習等】 シラバスから判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	子ども理解の発達心理学	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	80名	
担当講師	タカハシ ノボル 高橋 登 大阪教育大学特任教授	
日程 実施時間	10月31日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月1日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2689120	【授業内容】 この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD：Bring Your Own Device）で実施します。 【受講前の準備学習等】 【受講者が当日用意するもの】 【その他（特記事項）】 読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。 この授業では、心理学における実験的研究を4つ（ミューラー・リヤー錯視、対人魅力～態度の類似性～、心理尺度、目撃者証言）取り上げます。実験を実施する前に、まず心理学の研究法、実験データの整理、レポートのまとめ方について解説します。次に、実験参加者・実験者として実験を行い、そのデータを集計し、考察、レポート作成、解説という流れで進めます。受講生の皆さんは、原則8回の授業にすべてに出席し、4つの実験全てについてレポートを提出する必要があります。 【到達目標】 ・心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。 ・実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 オリエンテーション・心理学の研究法およびレポート執筆指導 第2回 実験1「ミューラー・リヤー錯視」の説明、実施、データ整理 第3回 実験1のレポート作成指導と解説、実験2「心理尺度」の実施 第4回 実験2「心理尺度」データ処理、レポート執筆指導、解説 第5回 実験3「対人魅力」の説明、実施、データ処理 第6回 実験3「対人魅力」のレポート執筆指導、解説 第7回 実験4「目撃者証言」の実施、データ処理、レポート執筆指導 第8回 目撃者証言および記憶についての解説 【学生へのメッセージ】 実験の実施、データ処理、結果のまとめ等に、パソコンを使いますので、基本的なパソコン操作（Excel）は習得されていると望ましいです。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし、実習課題について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 なお、この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（24）」、「心理学研究法（20）」、「心理学統計法（21）」を視聴してください。 インターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の葉」をご参照ください。 OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況および提出された4本の実験レポートの総合評価で行います。 レポートの提出期限は、原則として第8回目の授業終了までとします。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	L	
科目名	心理学実験1	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	30名	
担当講師	リン ヘイヘイ 林 萍萍 大阪商業大学助教	
日程 実施時間	11月7日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月8日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
授業概要		
実施会場	大阪学習センター	【受講者が当日用意するもの】 1. 持参する端末：ノートパソコンを持参してください。 2. OS の指定：指定なし 3. ソフトのインストール ・ブラウザは Microsoft Edge（エッジ）、Google Chrome（クローム）のいずれかが必要です。 ・Word が必要です。 ・Excel が必要です。 4. その他 ・マウスを持参してください。 ・ソフトのバージョン指定はありません。 ・手書きまたは印刷の紙媒体のレポートを授業最終日に提出してもらいますが、学習センターにプリンターはありませんので、印刷の場合自宅やコンビニ等で印刷してください。 ・定規、鉛筆、消しゴム（手書きでレポートを提出する場合） 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 充電を完了した端末と、充電切れが生じたときのためにACアダプタを必ず持参してください。 端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 なお、端末の故障や必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責によらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。 心理学実験1、心理学実験2、心理学実験3は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からでも受講可能です。

科目コード	2689146	【授業内容】 この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD:Bring Your Own Device）で実施します。 【受講前の準備学習等】 【受講者が当日用意するもの】 【その他（特記事項）】 を読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。 心理学の基礎的な実験3種を行います。皆さんはそれらの実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として経験し、さらにその結果をレポートにまとめます。受講生の皆さんは、原則8回の授業すべてに出席し、3つの実験それぞれについてレポートを提出する必要があります。 【到達目標】 心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 心理学実験とは 第2回 レポートの書き方 第3回 自由再生による記憶の系列位置効果（1）解説と実験 第4回 自由再生による記憶の系列位置効果（2）データ集計と統計分析 第5回 メンタルローテーション（1）解説と実験 第6回 メンタルローテーション（2）データ集計と統計分析 第7回 パーソナルスペース（1）解説と実験 第8回 パーソナルスペース（2）データ集計と統計分析 【学生へのメッセージ】 2人ペア、あるいは3～4人のグループでの作業やディスカッションを含む授業です。レポートの作成にはしばしばたいへんな苦勞を伴いますが、なぜその結果が得られたのかを自分なりに考えながら、心理学の醍醐味・面白さを感じてもらえればと思います。 【受講前の準備学習等】 インターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の葉」をご参照ください。 OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。 実習課題の内容について、あらかじめ調べておく必要はありませんが、シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 実験の実施、結果のまとめ、レポートの作成等にパソコンを使用しますので、基本的なパソコン操作（特にExcel）を習得されていることが望ましいです。 この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。 放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。 事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点により行います。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	M	
科目名	心理学実験2	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	30名	
担当講師	ショウダ ハルカ 正田 悠 京都市立芸術大学准教授	
日程 実施時間	11月28日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月29日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	大阪学習センター	【受講者が当日用意するもの】 1. 持参する端末 ノートパソコンを持参してください。 2. OS の指定 WindowsまたはMacのノートパソコンに限ります（iPadやAndroidのタブレット端末は不可）。 3. ソフトのインストール ・ブラウザはMicrosoft Edge（エッジ）、Google Chrome（クローム）、Mozilla Firefox（ファイアーフォックス）、Safari（サファリ）のいずれかが必要です。 ・データ処理のためExcelが必要です。 4. その他 ・マウスを持参してください。 ・ソフトのバージョン指定はありません。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎（日本心理学会認定心理士資格認定委員会／金子書房／¥2,750／ISBN=9784760830312） 【その他（特記事項）】 充電を完了した端末と、充電切れが生じたときのためにACアダプタを必ず持参してください。 端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 なお、端末の故障や必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責によらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。 心理学実験1、心理学実験2、心理学実験3は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からでも受講可能です。

科目コード	2689162	【授業内容】 心理学における実験的研究を4つ取り上げます。受講者の皆さんは、それらの実験に、実験者及び参加者として参加し、得られた結果をレポートにまとめます。授業を通して、心理学の仮説設定や、実験の方法、データ整理、レポートの書き方について理解することを目指します。受講者の皆さんは、原則8回の授業すべてに出席し、4つの実験全てにおいてレポートを提出する必要があります。 【到達目標】 心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 ストループ課題実験（1） 第2回 ストループ課題実験（2） 第3回 囚人のジレンマ実験（1） 第4回 囚人のジレンマ実験（2） 第5回 ヒューリスティック判断（1） 第6回 ヒューリスティック判断（2） 第7回 鏡映描写課題実験（1） 第8回 鏡映描写課題実験（2） 【学生へのメッセージ】 授業では、4つの心理学実験に取り組みます。ほとんどの実験が他の受講者と2人～4人一組となり、協力して実験を実施してもらいます。授業の構成は、実験の説明（講義）、実験の実施、データの分析、実験レポートの作成、です。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。特に、心理学統計（特にt検定）について学習しておいてください。ただし、実習課題について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。 事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及び4つのレポート課題への評価により行います。 【受講者が当日用意するもの】 ストップウォッチ（秒単位まで測定できるものであればスマホなどでも可）、鉛筆（短い方がよい）、電卓 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 ・色識別を要する実験課題があります。 ・レポートは授業中に手書きで作成します。 ・心理学実験1、心理学実験2、心理学実験3は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からでも受講可能です。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	心理学実験3	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	50名	
担当講師	タニグチ ジュンイチ 谷口 淳一 帝塚山大学教授	
日程 実施時間	11月28日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月29日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2689162	【授業内容】
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	L	
科目名	心理学実験3	
科目区分	専門科目：心理と教育	この授業は自分用パソコン持ち込み方式(BYOD:Bring Your Own Device)で実施します。 【受講前の準備学習等】 【受講者が当日用意するもの】 【その他（特記事項）】 を読み、受講環境を自身で整えられるか確認してから科目登録してください。 最初に心理学における実験の重要性と実験のための基礎知識、レポートの書き方とレポートを書く意義について説明します。その後3つの実験（短期記憶検索、視覚探索、ストループ効果）に実験者・被験者として参加し、結果をレポートにまとめます。授業を通して、心理学における実験の方法、データ整理、レポートの書き方について学びます。原則として全8回の全ての授業に出席し、全ての実験についてレポートを提出する必要があります。 【到達目標】 心理学の実験を「実験者」や「参加者（協力者）」として体験的に学ぶことにより、心理学で重視される実証研究の考え方と具体的な手続きを説明できるようになる。 実験で得られたデータを適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 心理学における実験の重要性と実験を行うための基礎的知識に関する説明 ・レポートの書き方とレポートを書くことの意義に関する説明 第2回 「短期記憶検索」実験の実施とデータ処理 第3回 「短期記憶検索」解説 第4回 「視覚探索」実験の実施とデータ処理 第5回 「視覚探索」解説 第6回 「ストループ効果」実験の実施とデータ処理 第7回 「ストループ効果」解説 第8回 レポート作成の指導 【学生へのメッセージ】 単に実験を行うだけでなく、科学における実験の重要性、実験レポートの書き方についても講義・指導をします。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし、実習課題について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 講義で使う資料は、当日配布しますが、事前にGoogle ClassroomからもPDFでダウンロードできるようにしておきます。講義が近づいてきたら、Google Classroomをチェックするようにしてください。 「レポートの書き方 京都大学国際高等教育院 2016」をあらかじめ読んできてください。 https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/250143/1/writing.pdf からダウンロードできます。 インターネットへの接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の葉」をご参照ください。 OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。 講義中に指定するURLアドレスから講義に必要なファイルをダウンロードしてもらいます。 ファイルをダウンロードして特定のフォルダに入れる操作に習熟しておいてください。 この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。事前にこれらの講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（24）」、「心理学研究法（20）」、「心理学統計法（21）」を視聴してください。 Excelでの平均値、標準偏差の計算、グラフの作成に慣れておくとう便利です。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点により行います。 レポートの書き方等は授業の際に教示します。 レポートは Google Classroomの課題提出機能を使って提出してもらいます。
担当講師	ミヤウチ サトル 宮内 哲 国立研究開発法人情報通信研究機構特別研究員	
日程 実施時間	12月5日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月6日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	大阪学習センター	
【授業概要】		【受講者が当日用意するもの】 1. 持参する端末 ノートパソコンを持参してください。 2. OSの指定 種類は問いません（Windows、macOS、ChromeOS等）。 3. ソフトのインストール ブラウザはMicrosoft Edge(エッジ)、Google Chrome(クローム)、Mozilla Firefox(ファイアフォックス)、Safari(サファリ)のいずれかが必要です。 4. その他 筆記具 マウスの使用を推奨します。 前日は十分な睡眠をとってください。眠気は実験結果に大きな影響を及ぼします。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・レポートの書き方 アカデミック・ライティングのポイント（京都大学国際高等教育院／京都大学国際高等教育院／） レポートの書き方について、わかりやすく解説しています。以下のアドレスからダウンロードできます。 https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/250143/1/writing.pdf ・大学文章論（本ではなく、インターネット上のサイトです）（大学文章論／https://ac-writing.com/／） レポートでの序論や結論の書き方、引用文献・参考文献の書き方、文章についてなど、非常にわかりやすくて的確な説明があります。 【その他（特記事項）】 色識別を要する実験課題があります。 心理学実験1、心理学実験2、心理学実験3は、難易度の違いによるものではありません。いずれの科目からでも受講可能です。作成にパソコン等でのワープロを使用することは構いませんし、推奨します。どうしてもワープロ等の作業が困難な人は手書き等で作成することを禁ずるものではありませんが、最終的には電子的な形態へ変換して提出することになります。その電子化の方法については自己責任でお願いします。レポートの最終提出形態については各自で可読性があることを確認の上提出してください。 充電を完了した端末と、充電切れが生じたときのためにACアダプタを必ず持参してください。 端末等に不具合が発生した場合、講師や学習センター職員では対応できないため、自身で解決する必要がありますのでご注意ください。 なお、端末の故障や必要なソフトをインストールしていなかったなど、本学の責によらない事情で受講できなかった際は、単位認定できない場合がありますのでご了承ください。

科目コード	2689189	授業概要 【授業内容】 心理検査は、パーソナリティをはじめとする「個人差」を測定するものです。この授業は、①多様な心理検査の理論的背景を知り、②実際に三つの心理検査を体験し、③レポートを書くという流れで実施します。この取り組みによって、各種心理検査の特徴とその限界を理解し、結果の解釈から自己理解を深めることが、この授業の目的です。なお、原則として8回の授業すべてに出席し、締切日までにすべての検査実習のレポートを作成・提出する必要があります。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	L	
科目名	心理検査法基礎実習	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	20名	
担当講師	ウエハラ ヨリコ 上原 依子 放送大学非常勤講師	
日程 実施時間	12月5日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月6日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	大阪学習センター	【到達目標】 ・心理検査法を、「検査者」や「被検査者」の役割を通して体験的に学ぶことで、心理検査を実施する意義と具体的手続き、検査を実施する上での倫理を説明できるようになる。 ・検査の結果を適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 オリエンテーション 心理検査の意義、心理検査の種類、信頼性と妥当性、検査倫理 第2回 検査実習1 YG性格検査・新性格検査・BigFive 第3回 検査実習2 バウムテスト 第4回 投影法（ロールシャッハ・テスト、TATなど）とは 第5回 検査実習3 ローカス・オブ・コントロール尺度 第6回 心理尺度の作り方（項目分析、因子分析法） 第7回 心理検査の活用（テスト・バッテリー）、まとめ 第8回 レポートの書き方 【学生へのメッセージ】 この授業では、心理検査を実施後、自分自身の結果を解釈してレポートを提出します。日常的な主観による判断だけではなく、心理学的な手法を用いることによって、さらに自分自身のことを知る一助となれば幸いです。 【受講前の準備学習等】 この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。そのため、放送大学や他大学で心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を、4単位程度修得済みであることが望ましいです。事前に上記講義の受講が困難な場合は、放送大学の「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。その他、シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし、実習課題の内容について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとに復習を行い、理解を深めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況と、後日提出のレポートの評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 ・HBの鉛筆2・3本、消しゴム、赤のボールペン、定規（短いものでOK） ・データ集計のため、電卓、またはパソコン（Excel）を持参しても構いません（ただし、原則電源は供給できないため、十分な充電をお願いいたします）。 ・レポートは締切日までに紙媒体で提出する形式です。学習センターにプリンターはありませんので、自宅やコンビニ等で印刷してください。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。

科目コード	2689189	授業概要 【授業内容】 心理検査は、パーソナリティの個人差について測定するために用いられるものです。この授業では、さまざまな心理検査の理論的背景について解説をしたうえで、実際に3つの心理検査を体験し、それぞれについてのレポートの提出を求め、その内容を評価します。さらに、各種心理検査の特徴とその限界を理解するとともに、検査結果の解釈から自己理解を深めることもその目的に含みます。 なお、原則8コマの授業すべてに出席し、すべての検査実習についてレポートを提出する必要があります。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	M	
科目名	心理検査法基礎実習	
科目区分	専門科目：心理と教育	
ナンバリング	320	
定員	20名	
担当講師	ナカジマ アユミ 中島 歩 近畿大学メディカルサポートセンターカウンセラー モトオカ ノリコ 本岡 徳子 東光学園臨床心理士	
日程 実施時間	12月12日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月13日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	大阪学習センター	【到達目標】 心理検査法を「検査者」や「被検査者」として体験的に学ぶことにより、心理検査を実施することの意義と具体的手続き、及び心理検査を実施する上での倫理を説明できるようになる。検査の結果を適切な手法によって分析し、その結果を考察して、心理学の標準的な形式に則ったレポートとしてまとめることができる。 【授業テーマ】 第1回 心理検査の成り立ち（本岡） 第2回 検査実習1 Big Five尺度（本岡） 第3回 検査実習2 パウムテスト（本岡） 第4回 心理検査の信頼性・妥当性について（本岡） 第5回 心理テストにおける倫理（中島） 第6回 検査実習3 P-Fスタディ（中島） 第7回 質問紙・投影法・作業検査法の特徴（中島） 第8回 テスト・バッテリーについて（中島） 【学生へのメッセージ】 心理検査を実施して、ご自身の結果を解釈してレポートを提出していただきます。心理検査を実施する立場と実施される立場の両方を体験し、心理検査についての体験的理解を深めていただく機会になればと考えています。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。ただし、実習課題について、あらかじめ調べておく必要はありません。また、授業で学習した内容をもとにして復習を行い、理解を深めてください。 この授業の受講には、心理学の基礎的知識が必要です。 放送大学または他大学において心理学の講義（概論、研究法、統計学など）を受講し、4単位程度を修得済みであることが望ましいです。 事前に上記の講義を受講することが困難な場合には、放送大学のインターネット配信で「心理学概論（'24）」、「心理学研究法（'20）」、「心理学統計法（'21）」を視聴してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの点数により行います。 【受講者が当日用意するもの】 描画法を実施するため、4Bの鉛筆を2本、消しゴム1個、A4サイズの画用紙1枚を用意してください。また、心理検査結果を計算するため、電卓をご持参ください。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。

科目コード	2695740	【授業内容】 本講義は、「貯蓄から投資へ」という潮流の中で受講生の「金融リテラシー」の向上を目的とします。リスク性資産である債券と株式という証券に焦点を当て、それらの評価方法、またそれらをどのように組み合わせ最適なポートフォリオを作成できるかを学習します。さらに、資金の出し手である投資家と資金運用者である機関投資家、投資先企業の間の利益相反と利益相反軽減のためのメカニズムや施策について概観します。 【到達目標】 学生は、証券投資における証券の評価方法とポートフォリオ理論について理解し、理論に基づく最適ポートフォリオを構築できるようになる。加えて、資産運用における基礎知識を身に付け、金融機関や資産運用会社の販売する金融商品を批判的に評価できるようになる。 【授業テーマ】 第1回 証券と投資、債券市場と株式市場 第2回 企業分析 第3回 投資における評価の基本原理と債券分析 第4回 株式分析 第5回 ポートフォリオ理論 第6回 ポートフォリオ理論とグローバル投資 第7回 行動ファイナンスと投資信託 第8回 投資家責任について 【学生へのメッセージ】 考える授業、ためになる授業を目指しますので、一緒に有意義な二日間を過ごしましょう！ 【受講前の準備学習等】 教科書を事前に読んで予習しておいてください。また、シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 電卓または電卓機能の付いた機器 【教科書】 ・新・入門証券論（榊原茂樹・城下賢吾・岡村秀夫・山口聖・月岡靖智・北島孝博／有斐閣／¥2,970／ISBN=4641166374）
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	証券投資論入門	
科目区分	専門科目：社会と産業	
ナンバリング	320	
定員	80名	
担当講師	ツキオカ ヤストモ 月岡 靖智 関西学院大学教授	
日程 実施時間	11月12日(木) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月19日(木) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695758	【授業内容】 この授業では、経営管理に関する基本的な知識を概説します。個人、グループおよびマクロ組織を対象に、モチベーション、チームビルディングやマネジメントコントロールといった、現代の経営組織の管理に欠かせないトピックについて議論します。これらの知識は、経営組織を対象とした、社会科学の幅広い分野における研究成果であり、経営の実務に携わる人々のみならず、人間、組織や社会の本質を探究する人々にとって重要な示唆を与えてくれます。授業では、これらのトピックについて、企業やその歴史を取り上げながら説明します。 【到達目標】 ・経営管理論の基本的な用語の意味を理解できるようになる。 ・経営管理論の理論やフレームワークを理解できるようになる。 ・経営組織の実務上の課題を発見し、理論的に分析できるようになる。 【授業テーマ】 第1回 モチベーション① 第2回 モチベーション② 第3回 リーダーシップ① 第4回 リーダーシップ② 第5回 グループの基本 第6回 グループでの意思決定 第7回 チームの基本 第8回 組織の3要素 【学生へのメッセージ】 我々は組織の中で業務を分業し、他のメンバーと協働することで、個人が生み出せる成果以上のものを生み出すことができます。しかし、複数人がただ単に集まっただけでは烏合の衆であり、組織としては機能しません。本講義ではチーム、グループや組織が有効に機能するための理論について説明します。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して、自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・【新版】組織行動のマネジメント入門から実践へ（ティーブン P.ロビンズ／ダイヤモンド社／¥3,080／ISBN=9784478004593） ・コア・テキスト マクロ組織論（山田耕嗣・佐藤秀典／新世社／¥3,190／ISBN=9784883842124） ・コア・テキスト 経営管理（高松朋史・具承桓／新世社／¥3,135／ISBN=9784883842919）
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	経営管理論	
科目区分	専門科目：社会と産業	
ナンバリング	320	
定員	80名	
担当講師	ナカムラ フミアキ 中村 文亮 同志社大学助教	
日程 実施時間	11月21日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月22日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695766	【授業内容】 都市の歴史・風土と人の営みから都市空間の成り立ちをとらえ、都市空間の読み方と地域ごとに異なる空間の特徴について理解を深めます。また、人々が暮らす都市空間は、それぞれの時代の経済的・社会的要請に応じて開発され変化していきます。その変化によってもたらされている地域環境の実態から地域の課題を理解し、変化しながらも地域環境が持続的であるための計画的取り組みについて、事例を通して学びます。 【到達目標】 住んでいる都市や地域の町並みや生活環境について、その都市や地域の自然風土、歴史、生活生業の営みなどから、その特性と成り立ちを説明することができるようになる。都市や地域の生活空間を説明できるようになることで、地域のまちづくりや持続可能な開発のあり方を主体的に考えることができる。 【授業テーマ】 第1回 都市の歴史と都市のかたち（世界の都市） 第2回 都市の歴史と都市のかたち（日本の都市） 第3回 文化的景観の空間作法―地域性と暮らしの営み 第4回 都市空間の公共性―パブリックスペースと景観 第5回 住まいのかたち 第6回 歴史的都心の変容と持続―大阪と船場 第7回 船場の近代（北浜界隈・適塾などの見学と解説）1 第8回 船場の近代（北浜界隈・適塾などの見学と解説）2 【学生へのメッセージ】 ひとりひとりの生活の営みが集合することによって都市空間が形成され、地域らしさが生み出されます。都市の歴史と空間文化を学ぶことを通じて、地域環境の質は、市民（生活者）によって形成されることを認識していただきたいと思います。多様な人が流動する都市においては、その場所に暮らす人々が生活空間における営みの作法を共有するプロセスとして「計画」があり、都市空間の公共性とは何かを考えることが、都市の持続可能性につながります。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容をみて関心のあるテーマについて自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及び最終日のレポート（後日提出）の評点により行います。 レポートのテーマは講義内容の中から最終日に提示します。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・まとまりの景観デザイン―形の規制誘導から関係性の作法へ（小浦久子／学芸出版社／¥2,860／ISBN=9784761524401） ・未来の景を育てる挑戦―地域づくりと文化的景観の保全（日本建築学会編／技報堂出版／¥2,860／ISBN=9784765525534） ・都市計画とまちづくりがわかる本（小林郁雄・野澤千絵他編著／彰国社／¥2,640／ISBN=9784395320936） ・アースダイバー（中沢新一／講談社／¥1,980／ISBN=9784062128513） ・まちに住まう―大阪都市住宅史（大阪市都市住宅史編集委員会 編／平凡社／¥7,262／ISBN=9784582544145） 図書館などにあると思います。2日目の事前学習になります。 【その他（特記事項）】 ※本講座の学外授業について 2日目午後に北浜界隈で学外授業を行います（適塾と近代建築などの見学と現地でのまちの説明）。 適塾の参観料（400円程度）がかかります。詳細については後日送付する案内を参照ください。 学生教育研究災害傷害保険・通学中等傷害危険担保特約に加入してください。前日までに最寄りの学習センターにて加入してください。（面接授業開設科目一覧P.5参照） 天候や諸事情により、授業内容や時間割が変更になる場合があります。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	都市のかたちと空間文化	
科目区分	専門科目：社会と産業	
ナンバリング	320	
定員	30名	
担当講師	コウラ ヒサコ 小浦 久子 奈良文化財研究所客員研究員	
日程 実施時間	11月21日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月22日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	この授業は、【大阪学習センター及び★北浜周辺（2日目午後）（北浜周辺）】で行います。	

授業概要

科目コード	2695774	授 業 概 要	【授業内容】 日本の伝統芸能「能」は、中世を代表する芸能で特に室町時代の文化や思想を反映していると考えられています。もっとも、より深く能をよみとくと、その後現在まで伝承されてきた時代にもなって変化していった要素、付加された要素もあります。こうした変化にも注目しながら、能の歴史、演劇としての特徴、作品の背景にある思想についてよみといていきます。授業の二日目には特定の作品について解説をしたあと、その作品を実際に舞台上で鑑賞し、能の理解を深めていきます。 【到達目標】 日本の伝統芸能「能」の歴史や特徴などを理解し、予備知識を持って舞台鑑賞できるようにする。 【授業テーマ】 第1回 能の歴史概観 第2回 演劇のなかの能の特徴1ー戯曲 第3回 演劇のなかの能の特徴2ー演技 第4回 能の思想的背景 第5回 能の作品とテーマをよみとく1 第6回 能の作品とテーマをよみとく2 第7回 能楽鑑賞1 大槻能楽堂 第8回 能楽鑑賞2 大槻能楽堂 【学生へのメッセージ】 レポートは能楽鑑賞した舞台の内容を復習するつもりで、授業内での解説を参照しつつ、ご自身でも作品について調べ、よみといてみてください。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 ※本講座の学外授業について 面接授業2日目大槻能楽堂へ行きます。チケット代（3300円程度）がかかります。詳細については後日、受講生に案内を送付します。 なお、座席確保の関係上、所定の期日以降に受講できなくなったことが判明した場合（体調不良による当日欠席等も含む）は、チケット代をお支払いいただく必要があります。 学生教育研究災害傷害保険・通学中等傷害危険担保特約に加入してください（前日までに最寄りの学習センターにて加入してください）。 天候や諸事情により、授業内容や時間割が変更になる場合があります。
学習センター	大阪学習センター		
学習センターコード	27A		
クラスコード	K		
科目名	能の世界を知る		
科目区分	専門科目：人間と文化		
ナンバリング	320		
定員	50名		
担当講師	ナカオ カオル 中尾 薫 大阪大学教授		
日程 実施時間	10月17日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 10月18日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10		
実施会場	この授業は、【大阪学習センター及び★大槻能楽堂（2日目午後）（大阪市中央区上町A-7）】で行います。		

科目コード	2695782	授業概要 【授業内容】 最終的には20～30枚（19枚以内は成績対象外ですので拝読しません。ご注意ください）の、日本語による短篇小説を完成させることをめざして修練を積んでいくとおもいます。作品のテーマは問いません。短編小説をかくことで、内省的に自己や社会などをみつめ、「私/社会」などとはなにかを問いたく思います。長編小説と違って、短編小説とは、人生や社会などの一断面を切り取って提示するものですので、かなりの力量が必要です。その力を短期間で身につけてもらいます。他の講座と違って変則的な日程になりますが、ご容赦ください。 第1回目の授業であらかじめ購入してもらっていた拙著の感想会（全体の印象と気に入った作品について）を行います。 【到達目標】 短編小説を執筆できるようになるために、表現力を磨き構成力も培って行けるようになる。 【授業テーマ】 第1回 表現とは何か（1） 第2回 表現とは何か（2） 第3回 感想会（1） 第4回 感想会（2） 第5回 作品の講評会（1） 第6回 作品の講評会（2） 第7回 作品の講評会（3） 第8回 作品の講評会（4） 【学生へのメッセージ】 本講座は各自が創作を執筆して発表する場ですから、積極的な取り組みが必須となります。 【受講前の準備学習等】 内面への問いかけが、表現へとつながるように、ご自身を見つめる機会をお持ちください。 ※あらかじめ教科書の全短篇を読んできてください。 【成績評価の方法】 作品の完成度、授業における貢献度等を総合的に判断して評価する。 【受講者が当日用意するもの】 澤井繁男著『三つの街の七つの物語』（未知谷、2,000円＋税） 【教科書】 ・『三つの街の七つの物語』（澤井繁男／未知谷／¥2,200／ISBN=9784896425741） 2019年刊行 【その他（特記事項）】 1日目終了後、11月18日（水）までに、20～30枚の短篇を提出してもらいます。提出形式などは統一すべくお話しします。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	文芸創作講座	
科目区分	専門科目：人間と文化	
ナンバリング	330	
定員	20名	
担当講師	サワイ シゲオ 澤井 繁男 作家／元 関西大学教授	
日程 実施時間	10月18日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月20日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695790	授 業 概 要	【授業内容】 上方落語の歴史や演技の形態、劇場の仕組み、噺の種類や内容等について座学によって学ぶとともに、天満天神繁昌亭において実際の上方落語の上演に接し、総合的に上方落語に対する理解を深めます。 【到達目標】 古典芸能である落語が今日の社会でも流通している理由を理解し、能動的に鑑賞できるようにすることを目的とする。また、江戸時代から現代までの、江戸・東京と上方・関西の歴史・文化の違いを、落語を通じて説明できるようにする。 【授業テーマ】 第1回 上方落語の歴史（1）発生から近世まで 第2回 上方落語の上演形態・構造・種類 第3回 鑑賞する演目の解説（1） 第4回 鑑賞する演目の解説（2） 第5回 上方落語の歴史（2）近代以後、四天王から現代まで 第6回 上方落語と関西弁 第7回 天満天神繁昌亭にて落語鑑賞（1） 第8回 天満天神繁昌亭にて落語鑑賞（2） 【学生へのメッセージ】 天満天神繁昌亭での落語鑑賞は、「夜席」になります。18時半ごろ開演し、2時間程度の上演時間となります。また鑑賞のために、受講料とは別に2000円程度の入場料が必要となります。詳しい金額およびスケジュールは近づきましたらお知らせします。 【受講前の準備学習等】 YouTube、テレビ、ラジオ、ビデオ、CD、DVD等で落語（上方落語、江戸落語どちらでも）にあらはじめ触れておいてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・古典落語の史層（高島幸次／和泉書院／¥2,600／ISBN=9784757610422） ・落語に花さく仏教：宗教と芸能は共振する（釈徹宗／朝日新聞出版／¥1,400／ISBN=9784022630544） ・大阪ことばの世界（金水 敏／SBクリエイティブ／¥1,045／ISBN=9784815624712） 【その他（特記事項）】 ※本講座の学外授業について 面接授業2日目天満天神繁昌亭へ行きます。 チケット代（2000円～2500円程度）がかかります。詳細については後日、受講生に案内を送付します。 なお、座席確保の関係上、所定の期日以降に受講できなくなったことが判明した場合（体調不良による当日欠席等も含む）は、チケット代をお支払いいただく必要があります。 学生教育研究災害傷害保険・通学中等傷害危険担保特約に加入してください。 （未加入の方は必ず前日までに最寄りの学習センターにて加入してください）
学習センター	大阪学習センター		
学習センターコード	27A		
クラスコード	K		
科目名	上方落語の世界		
科目区分	専門科目：人間と文化		
ナンバリング	310		
定員	70名		
担当講師	キンスイ サトシ 金水 敏 放送大学大阪学習センター所長		
日程 実施時間	10月28日(水) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 10月29日(木) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 18:05～19:35 第4時限 19:45～20:30		
実施会場	この授業は、【大阪学習センター、【★天満天神繁昌亭（2日目夜）】（大阪市北区天神橋）で行います。		

科目コード	2695804	授業概要 【授業内容】 1日目は、まず白川静の字訓研究をもとに、字訓の成立と展開について講義し、次に漢字・漢文教育における〈訓〉を取り上げ、〈訓〉とは何なのかを明らかにする。2日目は、『説文解字』や『爾雅』『康熙字典』といった中国の字書について講義し、あわせて中国で出版されている甲骨文字など古文字の字書を取り上げる。 【到達目標】 ①日本が漢字・漢文を受容する際に〈訓〉が果たした役割について理解できるようになる。 ②中国古代からの字書編纂と、それにもなう漢字整理の流れを知ること、我々が使っている字書の成り立ちを理解できるようになる。 【授業テーマ】 第1回 白川文字学（久米） 第2回 白川静『字訓』（久米） 第3回 漢字と訓読み（久米） 第4回 漢文と訓読（久米） 第5回『説文解字』の世界（佐藤） 第6回 識字教科書・義書・韻書（佐藤） 第7回『説文』以後の字書（佐藤） 第8回 古文字の工具書（佐藤） 【学生へのメッセージ】 漢字は本来中国の言語を表記するための文字ですが、私たちは日々漢字を使って当たり前のように日本語を表記しています。この授業を通じて、日本人が外来の文字を自国の文字として取り入れてゆく過程、そして漢字を作り出した中国人が自分たちの文字をどうとらえ、字書という形で整理していったのか、日本と中国の漢字の歴史について理解を深めてほしいと思います。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断し自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	漢字学 ー漢字の訓と字書ー	
科目区分	専門科目：人間と文化	
ナンバリング	320	
定員	40名	
担当講師	クメ ヒロコ 久米 裕子 京都産業大学教授 サトウ シンヤ 佐藤 信弥 立命館大学客員研究員	
日程 実施時間	10月31日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月1日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695812	授業概要 【授業内容】 私たちは日々、ことばを使いながら「コミュニケーション」しています。しかし、「コミュニケーションとは何か？」とあらためて問われると、思いのほか、明確に答えることが難しいのではないのでしょうか。この授業では、実際に使われることば、社会・文化・行為の中にあることば、といった観点から、単なる「情報伝達」には還元できない「コミュニケーション」の様々な側面について考えます。なお、この授業は「コミュニケーションが上手になるためのノウハウ」を扱うものではありません。このことを予め理解したうえで受講してください。 【到達目標】 ・社会・文化・行為の中にある「ことばの使用」について、その多層的かつ動的なあり様を説明できるようになる。 ・コミュニケーション論的視点から、身の周りで起きていることを分析することができるようになる。 【授業テーマ】 第1回 導入：「コミュニケーション」について知っていること 第2回 「言われていること」と「為されていること」1 第3回 「言われていること」と「為されていること」2 第4回 「何が起きているか」についての解釈 第5回 コミュニケーションについてのコミュニケーション 第6回 ことば／コミュニケーションについての考え（イデオロギー） 第7回 いくつかのコミュニケーション・モデルとその射程 第8回 総復習・質疑応答 【学生へのメッセージ】 私たちが当たり前に行っているコミュニケーションが、実際は複雑なプロセスであり、決して当たり前ではないことを共有できればと思います。 【受講前の準備学習等】 身近なコミュニケーションやことばの使用を少し注意深く観察し、そこで何が起きているか、考えてみてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・コミュニケーション論のまなざし（小山亘／三元社／¥1,870／ISBN=9784883033133） ・言語人類学への招待：ディスコースから文化を読む（井出里咲子・砂川千穂・山口征孝／ひつじ書房／¥2,640／ISBN=9784894769656） ・語用論の基礎を理解する 改訂版（Gunter Senft（石崎雅人・野呂幾久子 訳）／開拓社／¥3,740／ISBN=9784758923644） 【その他（特記事項）】 「コミュニケーション」には様々な学問的視点からのアプローチが可能ですが、この授業は特に言語人類学、社会言語学、語用論の知見に依拠しています。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	コミュニケーション論 入門	
科目区分	専門科目：人間と文化	
ナンバリング	320	
定員	60名	
担当講師	エノモト タケシ 榎本 剛士 大阪大学教授	
日程 実施時間	11月7日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月8日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2695820	【授業内容】 「文楽」は、「人形浄瑠璃」を上演するプロの劇団です。太夫が三味線に合わせて「義太夫節」を語り、人形遣いがそれに合わせて演技をします。人形は1体を三人で操る三人遣いです。このような形態の人形劇は世界でも他に例を見ません。人形浄瑠璃は関西で生まれ、大阪で育った演劇であり、その由来にちなんで日本橋に国立文楽劇場が設立されました。また文楽は2003年に、ユネスコ無形文化遺産に指定されています。この授業では、大阪にゆかりの深い文楽について座学で学ぶとともに、実際に国立文楽劇場に赴き、11月公演を鑑賞します。 【到達目標】 先入観を取り払い、大阪の古典芸能「文楽」の歴史や作品について学び、大阪は、もちろんのこと、自分が人生で関わってきた土地の芸能や文化についても、学ぶ姿勢を持つことができる。 【授業テーマ】 第1回「文楽」の特徴～どんな演劇なのか 第2回「文楽」の歴史 第3回 文楽の演目～時代物～ 第4回 文楽の演目～世話物・近松門左衛門を中心に～ 第5回「文楽」鑑賞のための講義 第6回「文楽」鑑賞（のための講義になる可能性があります） 第7回「文楽」鑑賞 第8回「文楽」鑑賞 【学生へのメッセージ】 「文楽」鑑賞は有料ですが、団体割引によってお安く鑑賞できます。この機会にぜひ受講し、また劇場に足を運んで生の舞台の迫力にふれてください。 【受講前の準備学習等】 国立文楽劇場ウェブページに、「文楽かんげき日誌」というコーナーがあり、著名人の観劇体験に基づくエッセーが多数掲載されています。事前にいくつか読んでみてください。 https://www.ntj.jac.go.jp/bunraku/diary.html 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・文楽へようこそ（桐竹勘十郎・吉田玉女／小学館／¥1,650／ISBN=9784093108249） ・あやつられ文楽鑑賞（三浦しをん／双葉社／¥660／ISBN=9784575713831） ・新版 あらすじで読む名作文楽50選（高木秀樹／世界文化社／¥1,650／ISBN=4418152423） 【その他（特記事項）】 ※本講座の学外授業について 面接授業2日目国立文楽劇場へ行きます。チケット代（6000円程度）がかかります。2日目午前中はセンターでの講義の予定ですが、劇場のプログラムによっては講義時間等に変更が生じる場合もございますので、詳細については後日送付する案内を参照ください。 なお、座席確保のため、所定の期日以降に受講できなくなったことが判明した場合（体調不良による当日欠席等も含む）は、チケット代をお支払いいただく必要があります。 学生教育研究災害傷害保険・通学中等傷害危険担保特約に加入してください（前日までに最寄りの学習センターにて加入してください。） 観劇は時間に遅れないようにご注意ください。 天候や諸事情により、授業内容や時間割が変更になる場合があります。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	「文楽」を鑑賞する	
科目区分	専門科目：人間と文化	
ナンバリング	320	
定員	50名	
担当講師	アマノ ヒカル 天野 光 古典芸能案内人	
日程 実施時間	11月13日(金) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月20日(金) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	この授業は、【大阪学習センター及び★国立文楽劇場（2日目）（大阪市中央区日本橋1-12-10）】で行います。	

科目コード	2695839	授業概要	【授業内容】 時代とともに美術の哲学や思考が変化しています。現代美術は美しさを追求めるよりも、モノの見方や考え方を教えてください。現代の美術は新たな価値観を創造してきたと言っても過言ではありません。実際に美術館を訪れ現代美術に触れ、作品に潜む多様な価値観を体験しましょう。 【到達目標】 近代から劇的に変化する美術の価値観、特に現代の美術の価値観について理解し、説明することができるようになる。 【授業テーマ】 第1回 美術の価値観についての変遷を紹介 第2回 現代美術の源泉を探る 第3回 世界の現代美術 第4回 日本の現代美術 第5回 現代美術のキーワード 第6回 現代美術鑑賞入門 第7回 美術館で現代美術を体験する-part1 第8回 美術館で現代美術を体験する-part2 【学生へのメッセージ】 現代美術とは何かを探り、美術作品を体験することにより、作品への理解を深めます。パワーポイントやDVDなどで視覚に訴える授業を実施します。 【受講前の準備学習等】 抽象芸術、コンセプチュアルアート、インスタレーションなどについて受講前に調べておいてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポート（後日提出）の評点により行います。レポート課題は2つです。1,「美術館の企画展の感想」と2,「現代美術と社会との関係」について考察してください。
学習センター	大阪学習センター		
学習センターコード	27A		
クラスコード	K		
科目名	現代の美術：その哲学を探る		
科目区分	専門科目：人間と文化		
ナンバリング	320		
定員	50名		
担当講師	カトウ ヨシオ 加藤 義夫 大阪芸術大学客員教授／神戸大学非常勤講師		
日程 実施時間	12月5日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月6日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10		
実施会場	この授業は、【大阪学習センター及び★国立国際美術館（2日目午後）（大阪市北区中之島4-2-55）】で行います。		
			【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・20世紀の美術（監修＝末永昭和／美術出版社／¥2,750／ISBN=9784568400854） 【その他（特記事項）】 ※本講座の学外授業について 面接授業2日目国立国際美術館へ行きます。 国立国際美術館のチケット代（1,000円程度）がかかります。詳細については後日、受講生に案内を送付します。 学生教育研究災害傷害保険・通学中等傷害危険担保特約に加入してください。（未加入の方は必ず前日までに最寄りの学習センターにて加入してください） 天候や諸事情により授業内容、スケジュールが変更になる場合があります。

科目コード	2695847	【授業内容】 日本最古の官寺である四天王寺は、聖徳太子信仰を基盤として、舎利信仰や浄土信仰が複合的に重なった「四天王寺信仰」というべき独自の信仰を形成し、その聖地として隆盛してきました。本講座では、四天王寺をとりまく様々な信仰を深く理解するとともに、その背景となる日本の仏教史や文化史を総合的に学びます。さらに実地見学では、これらの信仰が今日にも息づいている「生きた寺院」としての四天王寺を体感していただきます。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	四天王寺信仰を読み解く	
科目区分	専門科目：人間と文化	
ナンバリング	320	
定員	50名	
担当講師	イチモト タカユキ 一本 崇之 大和文華館学芸員	
日程 実施時間	12月12日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月13日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10	
実施会場	この授業は、【大阪学習センター及び★四天王寺（2日目午後）（大阪市天王寺区四天王寺1-11-18）】で行います。	【到達目標】 四天王寺をとりまく歴史的背景や信仰について理解し、現在の同寺のあり方をふまえたうえで、古代寺院である四天王寺がなぜ今日も人々の信仰を集め、「生きた寺院」として存続しえたのかを説明することができる。
		【授業テーマ】 第1回 四天王寺の歴史 第2回 四天王寺絵堂と聖徳太子絵伝－聖徳太子信仰の源流－ 第3回 『四天王寺縁起』を読む 第4回 四天王寺の浄土信仰－西門と日想観－ 第5回 四天王寺の舎利信仰 第6回 四天王寺における聖徳太子御忌事業 第7回 四天王寺の実地見学 第8回 四天王寺の実地見学
		【学生へのメッセージ】 四天王寺だけを取りあげた限定的な内容ではなく、「四天王寺」をキーワードとして、美術史を中心とした日本仏教文化史や大阪の歴史を幅広く学ぶ機会にしたいと思います。
		【受講前の準備学習等】 より深く学びたい方は、参考書『聖徳太子と四天王寺』、『四天王寺新縁起』を熟読し、予習されることをお勧めします。
		【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況とレポート（後日提出）により行います。 《レポートテーマ》 古代寺院である四天王寺がなぜ今日まで「生きた寺院」として存続しえたのか、当寺における信仰の特質をふまえて考察しなさい。
		【教科書】 授業当日にプリントを配付します。
		【参考書】 ・『聖徳太子と四天王寺』（石川 知彦監修・和宗総本山四天王寺編集／法蔵館／¥3,080／ISBN=9784831860705） ・『四天王寺新縁起』（一本崇之著・和宗総本山四天王寺監修／東方出版／¥2,200／ISBN=9784862494672）
		【その他（特記事項）】 ※本講座の学外授業について 面接授業2日目四天王寺へ行きます。拝観料（400円程度）がかかります。詳細については後日、受講生に案内を送付します。 徒歩移動となるため、体力に不安のある方は科目登録の際によくご検討ください。 学生教育研究災害傷害保険・通学中等傷害危険担保特約に加入してください。 （未加入の方は必ず前日までに最寄りの学習センターにて加入してください） 天候や諸事情により授業内容、スケジュールが変更になる場合があります。

科目コード	2695855	授業概要 【授業内容】 第1回～第2回の授業では、〈訓〉を手がかりに、漢字・漢文教育の可能性について、第3回～第4回の授業では、書道と漢字教育の関わりについて、第5回～第8回の授業では、日本の漢字政策と漢字教育の現状について講義する。なお専門分野の見地から第1回～第2回は佐藤、第3回～第4回は張、第5回～第8回は久保が担当する。 【到達目標】 漢字・漢文のもつさまざまな特性や政策としての国語・日本語の歴史や現状を理解し、自分の受けた漢字教育との比較し、気づきができるようになる。 【授業テーマ】 第1回〈訓〉と漢字・漢文教育（1）（佐藤） 第2回〈訓〉と漢字・漢文教育（2）（佐藤） 第3回 毛筆の指導方法（日本）（張） 第4回 毛筆の指導方法（中国）（張） 第5回 国語政策における漢字（1）幕末・明治から昭和20年まで（久保） 第6回 国語政策における漢字（2）昭和20年から現代まで（久保） 第7回 デジタル情報化社会における漢字（久保） 第8回 これからの漢字教育（久保） 【学生へのメッセージ】 漢字は、本来、中国の言語を表記するための文字であるが、私たちは日々、漢字を使って当たり前のように日本語を表記している。この授業を通じて、日本人が外来の文字を自国の文字として取り入れてゆく過程や日本における漢字の現状について理解を深めてほしい。 また、当授業では、漢字について考察するため、漢和辞典（電子辞書でも可）を携帯することが望ましい。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 平成26年度1学期・平成28年度1学期・平成29年度2学期開講・令和4年度第2学期開講「漢字学—漢字の応用—」と内容が重複している箇所があります。
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	漢字学 —漢字教育の実践—	
科目区分	専門科目：人間と文化	
ナンバリング	320	
定員	40名	
担当講師	クボ ヒロユキ 久保 裕之 立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所専任職員 サトウ カズヨシ 佐藤 一好 大阪教育大学教授 チョウ リ 張 莉 大阪教育大学教授	
日程 実施時間	12月25日(金) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月26日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2693062	授業概要 【授業内容】 まず、パズルを解く感覚で「国際情報科学コンテストビーバーチャレンジ」の問題に挑戦してもらいます。また、1日目の午後と2日目は、ニュージーランドのTim Bell博士らが考案し、世界中で実践されている「コンピュータ・サイエンス・アンブラグド」という教育手法に基づき、身体を動かしたりゲームをしてもらいます。これらの遊びを通してコンピュータの基礎となる情報科学を学びます。2日目の最後は、大学入学共通テスト「情報」の一部を体験していただきます。（成績には反映しませんので安心してください） なお、この授業では、コンピュータをまったく使いません。 【到達目標】 ・情報科学のおもしろさを理解できる。 ・情報科学の基本的な仕組みを理解できる。 ・情報社会の基盤を理解できる。 ・学ぶことの楽しさを理解できる。 【授業テーマ】 第1回 国際情報科学コンテスト ビーバーチャレンジ 第2回 オセロ手品（エラー訂正）、点を数える（2進法） 第3回 メッセージ通信（文字表現）、FAXゲーム（画像表現） 第4回 ロボット操縦（プログラミング） 第5回 ロボット交番（支配集合） 第6回 宝島（状態遷移） 第7回 ジョニーを探せ！（情報量） 第8回 大学入学共通テスト「情報」に挑戦してみよう！ 【学生へのメッセージ】 グループでゲームをしながら学習しますので、他の学生と積極的に交流することになります。 【受講前の準備学習等】 身の周りにあるコンピュータや情報システムの仕組みについて、不思議に思うことなどを具体的に考えておいてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 鉛筆（シャープペンシル）、消しゴム 【教科書】 教科書は使用しません。 【その他（特記事項）】 座席は指定します。 他の学生とグループをつくって、ディスカッションしながら協働して課題に取り組んでいただきます。（講義を聴くという形式ではありません。） 体を動かすアクティビティがいくつもあります。また、屋外に出て活動するものもあります。動きやすい靴や服装で出席してください。（天候によっては変更します。）
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	遊びを通して学ぶ 情報科学	
科目区分	専門科目：情報	
ナンバリング	310	
定員	40名	
担当講師	ナカノ ヨシアキ 中野 由章 電気通信大学大学院客員教授／ 工学院大学附属中学校・高等学校長	
日程 実施時間	11月7日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月8日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	

科目コード	2693070		【授業内容】 この授業は自分用パソコン持ち込み方式（BYOD：Bring Your Own Device）で実施します。 【受講前の準備学習等】 【受講者が当日用意するもの】 【その他（特記事項）】 を読み、受講環境を自分で整えられるか確認してから科目登録してください。
学習センター	大阪学習センター		
学習センターコード	27A		
クラスコード	K		
科目名	プログラミング言語 各種詰め合せ		小学校からプログラミング教育が行なわれていることはご存知だと思います。また、大学入学共通テストでも「情報」が出題されています。そう、今、プログラミングはブームになっています！そのプログラミング言語にはさまざまなものがあります。この授業では、「アルゴリズム」「ヒトグラミング」「ピクトグラミング」「ドリトル」「Scratch（スクラッチ）」など、いろいろなプログラミング言語を体験します。 【到達目標】 ・プログラミング言語の特徴を、自然言語と対比して理解できる。 ・プログラミングの可能性と限界を理解できる。 ・プログラミングによって、イメージしたものを具現化できる。 ・プログラミングのおもしろさを理解できる。 【授業テーマ】 第1回 アルゴリズム（プログラミング体験ゲーム） 第2回 ヒトグラミング（人の動きをプログラミングしてみよう！） 第3回 ピクトグラミング（人型ピクトグラムを動かそう！） 第4回 ピクトグラミング作品発表会 第5回 ドリトル（日本語オブジェクト指向プログラミング） 第6回 ドリトル作品発表会 第7回 Scratch（ゲームやアニメーションをつくってみよう！） 第8回 Scratch作品発表会 【学生へのメッセージ】 パソコンのキーボードで日本語入力ができることを条件とします。 レポートも課しますが、実習の取り組み状況と作品を中心に評価を行います。 プログラミングの楽しさを実感していただきたいと思っています。 【受講前の準備学習等】 シラバスの内容から判断して、自己学習に努めてください。 パソコンのインターネット接続が必要です。学習センターでの無線LAN利用については、システムWAKABA学内リンクにある「面接授業のページ」または「学生生活の葉」をご参照ください。 OS等のセキュリティ修正プログラムを適切に適用してください。また、ウイルス定義ファイルも適切に更新してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点により行います。
科目区分	専門科目：情報		
ナンバリング	310		
定員	30名		
担当講師	ナカノ ヨシアキ 中野 由章 電気通信大学大学院客員教授／ 工学院大学附属中学校・高等学校長	授業概要	
日程 実施時間	12月25日(金) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 12月26日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 試験・レポート等 16:15～16:55		
実施会場	大阪学習センター		

科目コード	2695863	授業概要 【授業内容】 私たちが日常生活で見かける物質は、無機物質、有機物質、および高分子物質に大別されます。この中で、最後の高分子物質（ポリマー）は、非常に巨大な分子から構成されていて、その分子のかたちの違いから、それ以外の物質とは著しく異なる性質を示し、繊維、樹脂、プラスチック、ゴムなどとして日常生活に欠かせない物質となっています。 この授業では、このポリマーが日常生活でどのように利用されているか、そしてその用途に適した性質（物性）がどのようにして生み出されているかを分子の視点から考えてみます。その前提として、ポリマーサイエンスの基礎についても説明します。 【到達目標】 日常生活で利用されている繊維、樹脂、プラスチック、ゴムなどの高分子物質（ポリマー）の理解を深めることができ、日ごろからなじみ深いものの見方を変えることができる。 【授業テーマ】 第1回 ポリマー（高分子）とは何か 第2回 ポリマーサイエンスの基礎 第3回 1本のポリマーのかたちと大きさ 第4回 ポリマーの溶液と固体 第5回 繊維と樹脂 第6回 ゴムと高吸水性ポリマー 第7回 ポリマーと表面 第8回 環境と高分子、およびまとめ 【学生へのメッセージ】 ポリマーを構成している巨大な分子は複雑なかたちをしていて、とっつきにくいかもしれませんが、日常生活で使われているポリマー製品をポリマーサイエンスの視点から眺めてみると、いろいろな発見があると思います。高校の「化学」でも、教科書の最後で高分子物質を学びますが、この授業ではこの高校の授業での知識も前提とせずにお話していきます。 【受講前の準備学習等】 日常生活で利用されている繊維、樹脂、プラスチック、ゴムなどの製品について、インターネット等で調べておいてください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【参考書】 ・高分子化学（第5版）（村橋俊介ら編／共立出版／¥4,290／ISBN=9784320043800）
学習センター	大阪学習センター	
学習センターコード	27A	
クラスコード	K	
科目名	日常生活での ポリマーサイエンス	
科目区分	専門科目：自然と環境	
ナンバリング	320	
定員	40名	
担当講師	サトウ タカヒロ 佐藤 尚弘 大阪大学名誉教授	
日程 実施時間	11月28日(土) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:55 11月29日(日) 第1時限 9:45～11:15 第2時限 11:25～12:55 第3時限 13:45～15:15 第4時限 15:25～16:10 読解・レポート等 16:15～16:55	
実施会場	大阪学習センター	